令和５年度

第５次総合計画　中期戦略事業プラン　事務事業評価シート

事業名	平和都市宣言推進事業			事業番号	20-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	市民生活部	石田　康弘	市民協働課	久保田　敦子	

計　画　（Ｐｌａｎ）

総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち
		基本政策	5	暮らしの安心がひろがるまちづくり
		施策展開の方向	9	一人ひとりが大切にされるまちをつくる
		施策	20	平和と多文化共生社会の推進
予算事業名	平和推進事業費			
事務区分〔選択〕	◉ 自治事務　○ 法定受託事務　（選択してください）→		法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前　～	終了年度	－
関連法令等	伊勢原市平和都市宣言推進事業補助金等交付要綱			
国・県の計画等			計画期間	
関連個別計画			計画期間	
実施の背景（事業を取りまく環境・市民ニーズ）	終戦から70年以上が経過し、日本の戦争の惨禍を直接語ることのできる人が少なくなっている一方、世界各地では未だに紛争が起き、核兵器の廃絶も実現されていない状況です。平和都市として、広く市民に平和意識を啓発し、継承を促し、世界平和の礎となる、互いに尊重しあえるまちづくりをしていくことが求められています。			
目　的（何をどうしたいのか）	各種イベントや平和史料の収集と公開等により、市民への平和意識の啓発に取り組みます。			
主な対象（誰・何を対象に）	市民及び平和活動団体			
事業内容（手段、手法など）	・市立中学校3年生を対象として平和作文を募集するとともに、平和作文優秀者を広島市（平和の旅）へ派遣します。 ・平和の旅の体験報告等を行う「平和のつどい」を開催し、平和意識の啓発を行います。 ・平和史料を後世に伝えるため、戦争体験インタビューの撮影や戦時中物品の収集・公開を行います。			

事業行程	項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	平和作文募集	実施・優秀作品の公開	実施・優秀作品の公開
	中学生平和の旅	実施・関連事業の試行	実施・関連事業の試行
	平和のつどい	開催見送り	開催
	平和史料収集公開	収集・公開・活用	収集・公開・活用

目　標	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	平和関連事業実施件数	2件（令和2年度）	5件	5件

事業実施（Do）

事　業　実　施　　（Ｄｏ）

事業の「取組方針」 （前年度事務事業評価）	・平和史料収集事業における戦争体験インタビュー映像の活用、及び史料収集を進めるとともに、市ホームページ等を活用した史料の公開を実施していきます。 ・平和意識啓発につながる効果的な事業を継続的に実施していくため、平和推進事業の1つである「平和のつどい」に代わる新たな事業として、展示形式での「平和のパネル展」を8月に計画します。

実施方法〔選択・記入〕			
○ すべて直接実施	◉ 左記以外		
☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者	
☑ 補助金		補助先	中学生ヒロシマ平和の旅派遣団
☑ その他		具体の内容	東海大学文化社会学部広報メディア学科水島研究室

実施結果	項目	年度	
		令和3年度	令和4年度
	平和作文募集	実施・優秀作品の公開	実施・優秀作品の公開
	中学生平和の旅	実施見送り	規模を縮小して実施 （派遣生徒8人→4人）
	平和のつどい	実施見送り	新たに変わる事業として パネル展示を実施
	平和史料収集公開	収集・公開・活用	収集・公開・活用

実施した取組の内容	・市立中学校3年生を対象として平和作文を募集するとともに、優秀者4人を広島市（平和の旅）へ派遣しました。 ・「平和のつどい」に変わる新たな事業として「平和を祈念するパネル展示」を実施しました。 ・平和ドキュメンタリー映像を東海大学文化社会学部水島ゼミとの協働事業により制作しました。 ・主に若年層に戦争の悲惨さ、平和の尊さを継承するため「親子平和バスツアー」を実施しました。

目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	平和関連事業実施件数	2件 （令和2年度）	3件	5件

コスト	年度	令和3年度　実績				令和4年度 実績			
	事業費合計（a）			36	千円			450	千円
内訳	国県支出金 ①			0	千円			0	千円
内訳	地方債 ②			0	千円			0	千円
内訳	その他特財 ③			0	千円			0	千円
内訳	一般財源 （a）-①-②-③			36	千円			450	千円
国県支出金の内容									
その他特財の内容	受益者負担	○ 有　◉ 無		前回の改定時期					
その他特財の内容	その他								
人件費	正規職員	0.25	人	2,045	千円	0.3	人	2,571	千円
人件費	その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円
人件費	人件費合計（b）	0.25	人	2,045	千円	0.3	人	2,571	千円
トータルコスト（a）+（b）				2,081	千円			3,021	千円
単位当たりコスト	対象数 定義	平和推進事業参加者			単位	平和推進事業参加者			単位
単位当たりコスト	対象数 対象数	898			人	1,047			人
単位当たりコスト	総事業費／対象数	2,317			円	2,885			円

評価　（Check）へ

評　価　（Ｃｈｅｃｋ）

進捗状況 〔選択・記入〕	◉ 計画どおり（A） ○ 概ね計画どおり（B） ○ 計画どおり進捗せず（C）	A	**左記判断理由**	・平和関連事業において、計画どおり事業を実施し目標値を達成しました。（①中学生平和作文②中学生平和の旅③平和を祈念するパネル展示④平和ドキュメンタリー映像制作⑤親子平和ツアー）
実施水準 〔選択・記入〕	○ 他市より高い水準で実施（A） ◉ 他市と同水準で実施（B） ○ 他市より低い水準で実施（C） ○ 一律に比較できない事業	B	**他都市の事業内容等**	・近隣市と比べても、同等の事業実施を行っており、東海大学と協働した事業実施により、事業内容の水準確保を図っています。
有効性 〔選択・記入〕	◉ 高い（A） ○ 普通（B） ○ 低い（C）	A	**左記判断理由**	・平和作文については、中学3年生の社会科の授業に合わせて平和について考える機会を与えることで、より効果的な事業実施を図っています。 ・平和史料収集事業においては、市内に残る戦争の記憶を映像に残すことで、平和意識の啓発、後世への継承に努めました。
効率性 〔選択・記入〕	○ 効率的に実施されている（A） ◉ 改善の余地がある（B） ○ 抜本的な改善が必要である（C）	B	**左記判断理由**	・平和活動団体や東海大学との協働により、事業の計画や実施にあたっては、意見集約することにより、効果的な事業実施を図っています。

取組内容の改善　（Action）へ

取組内容の改善　（Ａｃｔｉｏｎ）

所管部長による総評	・様々な平和推進事業の取組により、平和意識高揚につながる効果的な事業の推進がなされています。 ・平和ドキュメンタリー映像を撮影、制作及び公開する事業は、平和意識を次世代へ継承する有意義な事業の1つであると考えています。 ・今後も引き続き、多くの市民に平和意識を啓発し、後世に継承していくことが重要です。